活用例　父の言葉（教科書１年P.12-14）

	学習活動（主な発問と児童の反応）	指導上の留意点
1	**▶思いやりについての考えを出し合う。** **○「思いやり」を感じたことはありますか。それはどんなときですか。** ・ペンを忘れたとき、友達がこっそり貸してくれた。 ・調子が悪いときに近所の人が声をかけてくれた。 ・友達が給食をこぼしたときに、片づけを手伝った。	・思いやりを感じた経験を出し合わせる。相手からしてもらったことに思いやりを感じた経験でもよいし、自分が思いやりをもって行動できた経験でもよい。そのとき、どんな気持ちになったかもきき、テーマを確認する。
	テーマ　**相手のことを考えて行動するときに大切なのは、どんなことだろう。**	
2	**▶「父の言葉」を読んで、話し合う。** **①「私」は、赤い松葉づえの女の子に、「何もない足」を見られたとき、どんな気持ちになったでしょう。** 〈とても悲しい〉 ・松葉づえは不自由だろうな。かわいそうだな。 〈ちょっとだけいやだ〉 ・自分だけ治って悪い気がする。見られたくない。 〈わかる〉 ・女の子は悔しいだろう。その気持ちがわかる。	・スマイルメーター❶を使って、道で女の子に会ったときの（P.13L.11-12）、「私」の気持ちを考えさせる。具体的な気持ちの内容や、そう考えた理由を丁寧に聞き取る。実態に応じてスマイルメーターにある言葉以外で答えてもよいことを伝える。
	②赤い松葉づえの子が見えると、横道に隠れていた「私」は、どんな気持ちだったのでしょう。 〈ちょっとだけいやだ〉 ・女の子は「私」の「何もない足」を見て、怒っているかもしれないし、声をかけるのは怖い。 〈すっごくわかる〉 ・女の子は自分だけつえをついて、「私」が治っているのは嫌だろうな。「私」でもそう思うはず。 〈とてももやもやする〉 ・何かしてあげたいけど、女の子は、治った「私」から声をかけられるのは、嫌かもしれない。 〈すっごくもやもやする〉 ・声をかけたら、女の子はよけいに傷つくかもしれない。でも、隠れたままでいいのかな。	・スマイルメーター❶を使って、「何も言わずに、擦れ違った」日（発問①）から、隠れ続けるようになった「私」の気持ちを考えさせる。 ・机間指導で生徒の操作するスマイルメーターを見て、考えを把握する。意図的に指名し、生徒の考えを引き出しながら、全体で考えを深める。全体で共有する際は、大型モニターで提示するとよい。 ・「私」が、単に女の子への負い目から避けたのではなく、女の子の気持ちを考えるからこそ、隠れてしまうということを押さえる。 ・生徒によっては、気持ちを選べても、選んだ理由を詳しく述べられないことも考えられる。その場合は、「代わりに誰か説明してくれるかな。」と呼びかけ、全体で考えるとよい。
	補助発問　**もし、赤い松葉づえの女の子が、隠れる「私」を見たら、どのように思うだろう。** 〈すっごくいやだ〉 ・なんで隠れるんだろう。よけいにつらい。 〈ちょっとだけ悲しい〉 ・なんで話しかけてくれないんだろう。	・赤い松葉づえの女の子の気持ちをスマイルメーター❶で考える。 ・「うれしい」を選び、話しかけられなくてよかったと考える生徒もいるかもしれない。「『私』もそう考えて隠れたのかもしれないね。」と言葉を添え、肯定的に受け止める。
	中心的な発問 **③「行ってお話ししてあげなさい。」という父の言葉を聞いて、「私」は、どんなことを思ったでしょう。** ・話を聞くだけでも相手は安心するんだ。 ・相手の話を聞いて、相手の思いを知ることが大事なのかもしれない。 ・相手が嫌がるかもしれないということを恐れて何もしないのではなく、声をかけてあげよう。	・他者に思いやりをもって接することの大切さとともに、相手への思いやりはどんなことから始まるのか、そしてそれをどのように表していけばよいのかを考えさせる。 ・最後に、筆者が行っているさまざまな福祉活動もこうした小さな経験から始まっていることを伝える。
3	**▶「思いやり」について考えたことを振り返る。** **○これから、誰かと接するときに、どうしていきたいか書きましょう。**	・本時で考えたことをもとに、ワークシートなどに書かせる。数名に発表させ、全体で共有する。